

教育指導担当

GIGAスクール構想の実現に向けたタブレット端末活用の推進について

新型コロナウイルスの感染拡大による臨時休業が続いている小中学校において、ICTを活用して全ての子どもたちの学びを保障する環境を緊急に実現する必要があることから、GIGAスクール構想の実現に向けて段階的に整備する予定であった端末の導入を前倒して、令和2年度中に全ての児童・生徒に1人1台のタブレット端末の整備を実現します。

1 GIGAスクール構想実現の背景

令和元年12月に、国は1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、一人ひとりの子どもたちの資質・能力を確実に育成できる教育ICT環境を実現するためのGIGAスクール構想を明らかにしました。その内容は、校内ネットワーク整備事業と情報機器整備事業を進め、令和5年度までに全国の児童・生徒に1人1台端末環境の実現を目指すというものです。

こうした中、新型コロナウイルスの感染拡大による国の緊急事態宣言を踏まえた学校の臨時休業を背景に、国は令和2年4月、1人1台端末の早期実現や、家庭でも繋がる通信環境の整備など、災害や感染症等の発生による学校の休業等への対応としてGIGAスクール構想を加速させ早期に学びを保障していくための補正予算を組みました。

この補正予算では、これまで令和5年度までに段階的に実施するとしていた児童・生徒の端末整備を前倒して令和2年度中に整備することとしています。また、「緊急時における家庭でのオンライン学習環境の整備」が新たな事業として位置付けられ、Wi-Fi環境が整っていない家庭へのモバイルルーター等の貸与等の支援が示されました。さらに、国の動向を踏まえ東京都としても独自でWi-Fiルーターの通信費を補助するほか、オンライン学習が可能となる環境整備を支援することを明らかにしました。

2 教育委員会におけるこれまでの取組

港区教育委員会では、平成26年度から、各小中学校へタブレット端末を順次、整備するとともに、「港区学校情報化アクションプラン」(計画期間:平成30年度～令和2年度)に基づき、平成30年度に芝小学校、令和元年度に御成門中学校をモデル校として児童・生徒に1人1台の端末環境を整備し、効果検証を行ってまいりました。

モデル校においては、端末を活用し、児童・生徒が自分の思考を可視化した

り、他者と共有したりする取組により、学びを活性化するなどの成果をあげており、端末整備を進めていくことの有効性について実証されています。

3 教育委員会の方針

令和2年度は、小中一貫教育校のお台場学園に1人1台端末を整備する計画としていましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、学校の臨時休業中における子どもたちの学びを保障していくことが喫緊の教育課題となり、国においてもGIGAスクール構想の計画が前倒しになったことから、令和2年度中に全ての児童・生徒に端末を整備していく取組を進めます。

また、端末の整備だけでなく、臨時休業中の学習を保障するオンライン学習を充実させるほか、これまで計画してきた校内の通信ネットワークの強化にも引続き取り組みます。

4 整備する端末

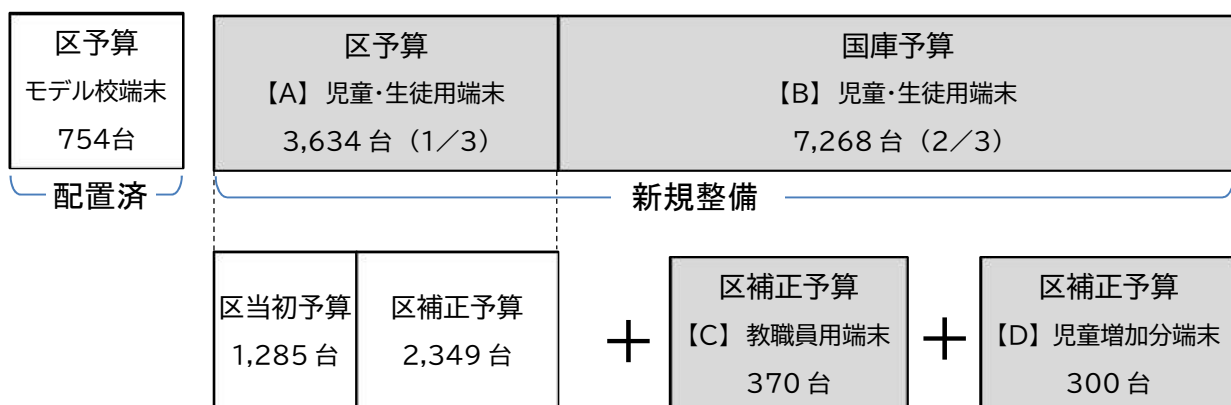
(1) 学習者用端末の仕様

GIGAスクール構想で、国から示された学習者用端末のモデル仕様は、Windows 端末、Chrome 端末、iOS 端末の3つの端末です。3つの端末を比較すると、iOS 端末は、現行で導入している Windows 端末よりもコスト面や端末保守、授業の開始時にすぐ起動ができる等実際の授業での活用においても優位な端末です。令和2年度に教育委員会事務局で開催する予定であったICT環境整備在り方検討委員会の委員を依頼していた学識者や現場の教員からもiOS 端末は高い評価を得たため、iOS 端末を導入します。

(2) 整備する端末台数

11,572台（教員用370台を含みます。）

このほか、モデル校にWindows 端末754台を配備済みです。そのため、貸借期間の更新時にiOS 端末に切り替えます。



※【A】+【B】+【C】+【D】=11,572台

6 スケジュール

令和2年 6月 タブレット先行導入分を配備（1,285台）

令和2年10月～ タブレットを順次配備（10,287台）